

名古屋南口ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30 ■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル
 ■会長/山本 郁矢 ■幹事/入谷 直行 ■会報・雑誌・広報委員長/細井 俊男
 ■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために
 2011-2012年度 RI 会長 カルヤン・パネルジー

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

第992回

2012年3月6日(火) 晴 第33回

～識字率向上月間～

斉唱 君が代 奉仕の理想
 出席 会員63名(出席率算入人数59名)
 出席49名 出席率83.05%
 前々回補填率100%(2月21日分)
 ゲスト 米山奨学生 キム・ウォンギョンさん

3月の誕生日

5日 三浦 隆さん 6日 鈴木 一博さん
 12日 加藤 宜之さん 17日 朝比美和子さん
 19日 久米 伸治さん 25日 水野 俊男さん
 26日 入谷 直行さん

配偶者誕生日

5日 朝比 久雄さん 6日 川村 良子さん
 10日 三浦 光子さん 25日 入谷由紀子さん
 29日 佐々木淳子さん

会長あいさつ

会長 山本 郁矢さん

皆様、こんばんは。

早いもので、もう3月です。会長になりまして、もう9ヶ月も経つ事になりました。残す所、僅かですが、更なる皆様のご協力を、この場をお借りしてお願いしたいと思っております。



さて、今日は、米山奨学生のキム・ウォンギョンさんが我々の例会に出席してくれました。日本福祉大学で博士号を取得できたと言う事でございます。本当におめでとうございます。

更には、今回が最後の例会と聞いております。日本にいる間は、時々は例会に顔を出していただければ幸いです。

また、米山記念奨学委員会の田中委員長、カウンセラーの坂田さん、本当にご苦労様ございました。今後ともご活躍をお願い申し上げて、本日の会長あいさつに代えさせていただきます。

幹事報告

幹事 入谷 直行さん

1. 浅井浩さんから出席免除の申請が出ており、先程の理事会で承認されました。
2. 3月7日の名駅RCさんの例会が、急遽取り止めに

なると連絡がありました。

3. 出席袋に東日本大震災の義援について、個人で何か活動をなさった方の報告を、という案内が入っております。個人の企業と置き換えていただいても結構ですので、ご報告をお願いしたいと思います。
4. 海外出張届けが出ております。江上隆夫さん、3月12日～19日、行き先はアメリカです。
5. 3月27日は、2RC合同例会で私共がホストとなっております。一応お迎えをする側という立場を良くご承知いただき、楽しい例会にさせていただきたいと思っております。

ニコボックス

- ◆ 米山奨学生キム・ウォンギョンさんの卓話を楽しみにしています。

加藤 英敏さん 白銀 義昭さん 川瀬 悟さん
 大橋さなえさん 伊藤 圭一さん 浅井 浩さん
 野々村憲吾さん 榎原 和美さん 中西 芳子さん
 出田真太郎さん 新原 尚さん 山本 誠一さん
 中村 勝さん 鈴木 一博さん 三浦 和人さん
 田中 省三さん 田中 一雄さん 森田敏二三さん
 木下 福郎さん 猪村 美之さん 水野 俊男さん
 坂田 信子さん 大平 明子さん 白藤 憲雄さん
 犬飼りさ枝さん 武藤 正行さん 伊藤 博昭さん
 山本 郁矢さん 久米 伸治さん 林 隆二さん
 木村 猛さん 川辺 清次さん 黒田 康正さん
 三浦 隆さん 江松 央統さん

本日合計 34,000円 累計 1,073,000円

委員会報告

- ローターアクト委員会 委員長 三浦 隆さん

3月18日のRACの例会は、貧困をテーマに、ホープチャペル名古屋主宰のホームレスへの炊き出しと配給を行うという事で、その時に配る男性物の衣類や下着類をいただけたら大変助かりますという要望がRACよりありました。

次回3月13日の例会に、RACの山田さんがお見えになります。その時に引き取りたいという事ですので、ぜひ提供をお願いしたいと思います。

アンチエイジングエクササイズ

- 環境保全・保健問題委員会 委員長 中村 勝さん

■カウンセラー 坂田 信子さん

こんばんは。

私は当初、どうしようかと迷いもありましたが、振り返ってみますと、思い出作りにととても良い1年でした。

と、言いますのは、修学旅行以来の奈良へ研修旅行に行きまして、沢山いるシカと戯れる一時もあり、また、川辺さんのご配慮で名南RCの合唱部に所属させていただいて、キムさんも一緒にコーラスの勉強をさせていただき、5月の横浜での全国合唱際もご一緒する事になっております。

今日で終わりという事でございますが、まだまだキム・ウォンギョンさんとは続いていて、仲良く両国の架け橋ともなっていていただく状況が続くと思います。是非、また皆様宜しく願いいたします。

今日は、キム・ウォンギョンさんの博士号を取られたところまでの色々なお話を聞かせていただけたと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



■米山奨学生 キム・ウォンギョンさん

皆様、こんばんは。米山奨学生のキム・ウォンギョンです。

私は、3月に無事に博士号を取得する事ができました。これも米山奨学金のお陰かと思えます。最も大変な博士課程3年目の時に、このような奨学金をいただく事ができたので、論文執筆だけに集中する事ができました。無事に審査も全て終わって、合格という確定も出ましたので、来週卒業する事になりました。

今日は、主に博士論文でどのような事を書いたのかという話をしたいと思います。しかし、あまり難しい理論的な事よりも、何故このような研究をしようとしたのか、最初に社会福祉学を選考しようとしたきっかけから、今の背景みたいな事を少しずつ話したいと思います。

まず、私が社会福祉学を専攻しようとした理由をお話します。私は光州の出身ですが、そこでは高齢者は昼間あまり外に出歩いたり、おしゃべりをして出掛けたりせず、ほとんど家に居たり、地域センターに集まって囲碁をしたり、おしゃべりする程度でした。しかし、東京の高齢者は皆さんすごく元気で、昼間にバスに乗ったら、高齢者しか居なくてびっくりしました。また、マクドナルド等でお茶をしたりという姿が、私にはすごく新鮮で、何故こんなに日本と韓国では、高齢者の日常の姿が違うのだろうというのが、最初の疑問でした。そこで、韓国との違いを高齢者福祉という分野から勉強してみたいと思い、上智大学の社会福祉学科へ入学し、そこで修士まで勉強しました。

私の博士学位の論文は、認知症高齢者の家族会活動と地域福祉の新たな展開というテーマで、高齢者福祉と地域福祉の分野から論文を書きました。

このようなテーマを選んだきっかけは、私の個人的な経験からです。私は、大学4年生の時に、社会



福祉士の国家試験を受ける為に、特別養護老人ホームへ実習に行きました。そこには入所していた認知症と身体的な障害を持ったAさんと、毎日夕食時にAさんの介護に来る奥様の夫婦がいました。私は、このAさんと、毎日すごく楽しく話をして、仲良くしていました。ところが、ある日の朝「おはようございます」と、あいさつをすると、Aさんはその途端にいきなり私の頬を叩きました。私は、親にも頬を叩かれた事が無かったので、すごくびっくりしてそのまま凍ってしまい、涙が出て、私の何が悪かったのかをすごく考えるきっかけになりました。その経験をしてから、その奥様の事をもっと注意深く見るようになりました。私はたった1回の出来事です。が、奥様は毎日介護していて、どういう事があるのだろうという事と、どういう思いで毎日介護をしているのだろうと、すごく考えるようになりました。

また、身近な事ですが、私の母親も父方の祖父母を介護しました。祖父母は認知症が無かったのですが、母方の祖母が具合を悪くした時に認知症が出て、その時に物忘れがひどくなり、そういう経験を身近でもするようになりました。私は、認知症本人よりも、介護している家族にもやはり支援が必要だという強い思いを持つようになり、それがこういう研究をするようになったきっかけとなります。

まず、日本の現状を紹介すると、2010年現在、日本では認知症高齢者が約208万人いると言われております。しかし、その家族介護者はこの数倍に至ると言われています。1人の認知症高齢者がいると、それを主に介護している主介護者となる方と、その周りでそれを支えている副介護者となる家族がいるからです。

また、介護が必要となる主な原因として、一番多いのは脳卒中ですが、次が認知症となります。これは、厚生労働省で統計データを出していますが、ほとんど毎年変化は無く、2位に認知症が来ています。

このような認知症は、私が話したちょっとしたエピソード以外にも、結構介護している皆さんの思いは、似たような部分がありまして、長年認知症介護者を、臨床の現場で支えていた、医師の杉山さんが出した、介護者真理ステップというのがあるので紹介します。

まず、家族が認知症になると、第1ステップとして、その家族は最初すごく戸惑ったり、否定をする事になります。第2ステップでは、認知症というのは、なかなか治らずに少しずつ進むようになるので、家族はどんどん混乱し始めます。また、同じ事を何度も言ったり、ご飯を食べてないと言い張ったりするので、家族は怒りを持つようになります。これは自分の親ではないと、拒絶をするようになります。第3ステップでは、自分がどんなに怒ったり、イライラしてもどうしようもないと諦めます。第4ステップは、医学的な知識がだんだん介護者にもできるので、受容する事になります。

このように、認知症を介護している家族介護者は、複雑な心境の変化を経験する事になります。しかし、日本ではまだ、認知症高齢者の家族介護者への政策的な支援は、ほとんど無しに等しいです。例えば、日本では、2000年4月、介護保険制度が導入された際に、介護を社会化させて、家族だけの責

任にはしませんというような事を聞こえ良く言ったのですが、実際には、全然ありません。依然として、同居する家族による介護が主体であり、政策自体が、家族の介護が前提となっているのが現状です。

また、老年学者である冷水が、欧米、特に北欧では、福祉の政策が進んでいますが、高齢者への公的なサービスがどんなに進んでも、今後も家族による介護がかかせないであろうと、言っています。また、一方で、家族社会学の研究者である笹谷は、このように家族が介護をする事が、もともと介護の主要な供給源であるというのが昔からの事なので、これは多分変わらないが、家族がどのように介護していくかという方法は、少しずつ制度によって変わっていくだろうと言っています。

次に、特に家族介護者への支援が乏しい中で、私が注目したのは、認知症高齢者の家族介護者への支援が必要だと言う事です。認知症高齢者を介護している場合、家族の方が負担感やストレスを持っている事が問題であると、医学・看護学・社会福祉学・社会学全ての分野で同一に言われています。介護者の精神疾患やうつ病の罹患率が高く、抑うつ状態に至る事が少なくない事が、全ての分野で指摘されています。

また、近年、「介護殺人」や「介護心中」という言葉も出てきています。介護のストレスや介護疲れによって、自分が介護している家族を殺してしまうのが介護殺人です。介護心中も言葉通りですが、数年前、元タレントの清水さんが介護自殺をしたエピソードもあります。このように、これは誰にでも起こり得る社会的な問題となっています。

また、特に介護殺人について研究している加藤によれば、介護殺人の場合、加害者に男性かつ事件後に自分も心中を図るケースが多い事がデータにも出ています。これは何故かと言うと、夫婦2人で暮らしていて、突然妻が認知症になり、それまでに家事等を一切やったことの無い夫は、今まで自分の為に家事を頑張ってくれた妻の為に、自分は介護を頑張ると責任感を強く持ってやるのですが、余りにも強い責任感でそういう男性ほど自分自身が壊れてしまうからです。外にも全然相談せずに、全部自分でやるという強い責任感により、結局介護ストレスになり、それが殺人に繋がってしまうというケースが多いそうです。

しかし、このようにマイナスな側面が多く言われている中で、近年、介護の肯定的な側面も注目されるようになりました。それは、介護利得感という言葉で、最近、色々な分野で言われています。介護肯定感が介護の主観的負担を軽減する事になると、教育学の分野で言われていたり、介護経験を、その後の社会活動に還元する事ができるのが良い面であると言われています。これは、認知症の場合、長年の介護を要するので、長年の介護が終わった後、それまでの自分の介護のノウハウを、地域のさまざまな社会活動に還元している事例もあります。

私は、これらの事に注目し、博士論文の研究・目的を、「認知症高齢者の家族会」及び「認知症高齢者を看取り終えた家族介護者」を地域福祉の活動主体として位置づけ、これらの主体の新しい活動プログラムの内容や展開を分析する事によって、それら

の活動の地域福祉における意義を明らかにすることで、その際には、日本・韓国の認知症高齢者の家族会研究の結果を踏まえて、当事者視点から地域福祉を捉えなおす、としています。尚、韓国の事については、修士課程でやっていたので、それに付け足す感じで、博士論文でもまとめています。

本研究では、これらの事をやるために、大きく2つの調査・分析をしました。

まず1つ目に、市町村レベルでの社会福祉協議会によって組織運営されている、家族会活動に着目し、調査をしました。今現在、政府による政策的な対策が無しに等しい状態の中で、特に家族介護者への対応的な支援策と言われているのが、家族会活動です。これは、単なる話し合いの場に見えるかも知れませんが、海外ではセルフヘルプグループやサポートグループと言われていて、同じ問題を持つ人達が一緒に集まって話し合う事によって、情緒的な支援が得られたり、情報交換ができたり、介護に関するスキルをお互いに学ぶ事ができるという、様々な効果がある事が検証されています。

従来の研究では、今言ったような機能や効果がある事を検証した研究に留まっていますが、私は本論文で、もう少し広がりを持つ為に、家族会活動内部での活動に留まるのでは無く、自分達が家族会活動から得られた様々なスキルやノウハウを地域に持っていく事を調査しました。それは新たな活動プログラムとなっているという事を調査・検証しています。

また、本研究では、今現在介護している家族介護者が何らかの活動するのは、時間的にも身体的にも無理なので、看取り終えた家族介護者（OB）に着目しています。これは、私の博士論文でも最もオリジナリティーがある部分だと評価された所です。こうしたOBがそれまでの経験を生かし、地域で新たな活動をやる事によって様々な効果が得られている事を私は調査・分析しました。これに着目した理由として、今日家族会活動をやっている中で、OBが最も大きな役割をしている事は、既に実践現場では知られている事実で、そこに着目しています。また、従来の研究では、OBが看取り終えた後、長年自分が介護していた人が居なくなった事によって、喪失感を感じる事が多い事が検証されています。それまで介護をしてあげた事が、自分が何らかの役に立ったように見える一方で、それが共依存になっており、介護した人が亡くなる事で、すごく大きな喪失感に襲われ、自分がこれから何をすれば良いか分からなくなる人達が多いのが現状です。また、そういう人達がうつになってしまったり、自殺してしまうケースもあるので、それをマイナス方向ではなく、プラス方向に持っていき、地域でそのノウハウを生かした活動をしている事に私は着目し、調査をしました。

本研究の意義は、このような調査をやった事によって、社会福祉協議会による家族会支援が、新たな段階に入った事を提示できた事です。これは、例えば今までの社会福祉協議会は、家族会活動と言うと、単なる内部でのグループワークとして家族会を支援していたのですが、そうではなくて、コミュニティワーク支援としてやっていけば、新たな活動プログラムが開発される事が検証できたので、社会

福祉協議会にそのような示唆を与えられた事と、また、看取り終えたOBをそのまま放って置くのではなく、その人達にもやはり支援が必要だという事が発見できた事も、本研究の意義であります。

また、2つ目に、介護者としての当事者性を持つ見取り後の家族介護者を、地域福祉の新たな活動主体として捕らえ、地域福祉の新たな展開を提示できた事も本研究で意義が大きいと言えます。特に介護を終えた方は、自分が経験した事により、その当事者視点に根差した家族介護支援事業を開発・運営できます。その1つの例としては、普通の社会福祉法人や営利法人等がやっている介護サービスは、どうしてもお金儲けであったり、形式的なものに過ぎません。しかし、自分が介護を経験した家族がやっているサービスは、本当に柔軟です。例えば、家族が今日突然ショートステイが欲しいと言えば、それに対応できるというような、当事者性に根差した活動をやっている事が特徴であります。その他にも、問題を対象者別にはではなく、横断的に対応して欲しいニーズに応じた活動をやっている事を検証できた事も本研究の意義であります。また、地域住民や専門機関を巻き込む活動をやっている事も、1つ大きな発見であると言えます。

最後に、本研究では韓国の事を直接調査した訳ではありませんでしたが、最終的に韓国にもこれからこうした問題が起こり得るので、韓国への示唆を求める事が1つの大きな目標でした。本研究は、地域福祉のこれらの新たな展開を韓国に示唆できた事が、大きい意義があると思います。これらの事を韓国の事情に合わせて、どのように適応していけば良いかを今後検証する事が、私の課題であります。

今後の予定ですが、4月からは、今通っている日本福祉大学の鶴舞キャンパスにあります、地域ケア推進研究センターで研究員として働く事になりました。1~2年後くらいには、韓国に帰国して、今まで研究してきた内容を生かせるような研究所、もしくは、大学で研究者として働く事を目指しています。

1年間、本当にどうもありがとうございました。

第 994 回例会 (3月27日) のご案内

2RC 合同例会 18:00 ~

於: 16F 「タワーズボールルーム」

■ 3 月度理事会 議事録 ■

報告者 本多 利郎さん

日時 2012年3月6日(火) 17:00 ~
場所 名古屋マリオットアソシアホテル
17F『パイン』

出席者 山本、伊藤、中西、宮寄、入谷、
榊原、久米、鈴木、武藤、浅井
木村、本多

17名中12名参加

◎審議事項

一、出席免除申請の件 <幹事 入谷 直行さん>
浅井 浩さん 出席免除 承認

◎報告事項

一、台北ミレニアム RC 訪問の件
<幹事 入谷 直行さん>

参加者 18 名
おみやげについては、3 クラブ合計 115 個
お菓子を送る。ニコボックスよりの出金とする。

一、3 / 27 2RC 合同例会の件
<親睦活動・家族委員会 本多 利郎さん>
式次第を作成後、東南 RC へ送る。
一部座席指定とするが、その他はクジ席とする。

一、4 / 7 春の家族会の件 (中間報告)
<親睦活動・家族委員会 本多 利郎さん>
3月6日時点で
プラネタリウムは 67 名
食事は大人 47 名、子ども 3 名

一、5 / 15 1000 回記念例会の件
<親睦活動・家族委員会 本多 利郎さん>
マリオットにて開催する。
名誉会員松岡さんをご招待する。

一、プログラムの件
<会場運営・プログラム委員会 木村 猛さん>
4 / 17 卓話
英会話教室の先生
ブリジット江湖さんによる卓話の予定

4 / 24 フリートーキング例会
地区出向の会員による卓話。各 10 分ずつとする。

5 / 29 環境工場見学会
通常例会とする。原子力発電所の廃棄物等に関する卓話。(DVD鑑賞あり)

※次回のご案内

4月10日(火)
名古屋マリオットアソシアホテル
17 F「パイン」 17:00 ~